

北総版 授業力向上のポイント

必見

～授業の前に確認するはじめての一步～



授業力向上のために、ぜひ確認してほしいポイントです。日々の授業で活用してみましょう。

理科

チェックを入れてみよう。

1 【まとめあげる】目指す児童生徒の姿（ゴール）の明確化

○本時を通して児童生徒のどんな資質・能力を育成しますか？そこからまずは児童生徒がどんな学習のまとめを書くことを期待するか（ゴールの姿）をイメージしましょう。

2 【自分で取り組む・広げ深める】まとめに向かうための学習活動

- 観察・実験は手段です。それ自体が目的化してはいけません。
- まとめに向かうための学習活動にしましょう。
 - 理科の見方・考え方を働かせられるような授業展開にしましょう。
- 特に「比較」「関係付け」は強く意識しましょう。

3 【見いだす】見通しをもつための学習課題

- 教科書に載っている問いをそのまま使うことが、本時の学習課題に適しているとは限りません。本時のまとめにたどり着けるような学習課題にしましょう。（学習課題とまとめを正対させましょう）
- 「どのように」など、抽象的な学習課題では児童生徒が授業の見通しをもてないこともあります。具体例を提示したり、予想をもとに実験方法を検討したりする工夫をしましょう。

4 授業プランの具体例（小学校6年生「電気の利用」より） ※下線部は比較の対象

①【まとめ】目指す児童生徒の姿の明確化（「まとめ」に書いてほしい表現）

豆電球と発光ダイオードでは、発光ダイオードの方が使う電気の量が少ない。

②まとめに向かうための学習活動

- ・手回し発電機を回す速さや回数をそろえ、コンデンサーに電気をためる。
- ・豆電球と発光ダイオードをそれぞれ回路につなぎ、明かりがついている時間を比較する。

③【学習課題】見通しをもつための学習課題

例1) 豆電球と発光ダイオードでは、使う電気の量に違いがあるのだろうか。

例2) 豆電球と発光ダイオードでは、使う電気の量が少ないのはどちらだろうか。

- ・導入で2種類の信号機の写真を見たり、コンデンサーにつないだときの明かりがついている時間や手回し発電機につないだときの手ごたえを振り返ったりしながら課題につなげよう。
- ・例1の場合は、電気の量の違いの有無に加え、使う電気の量が少ないのはどちらか予想させよう。
- ・例2の場合は、豆電球と発光ダイオードでは、使う電気の量に差があることが、前提となるような導入にしよう。